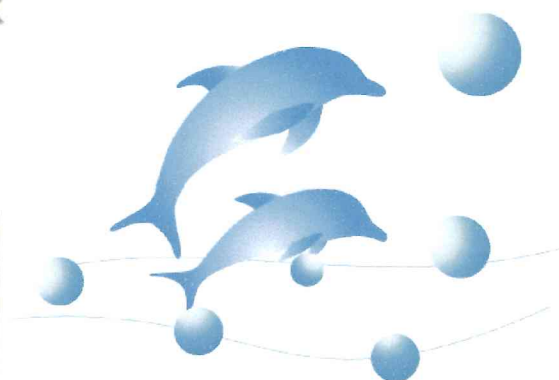




特定非営利活動法人  
沖縄県自立生活センター・イルカ  
2018年度（平成30年度）  
通常総会



日 時：2018年6月22日（金）13：00～17：00  
場 所：NPO法人 沖縄県自立生活センター・イルカ事務所内

# 平成30年度 通常総会式次第

司会：宮城 秀明

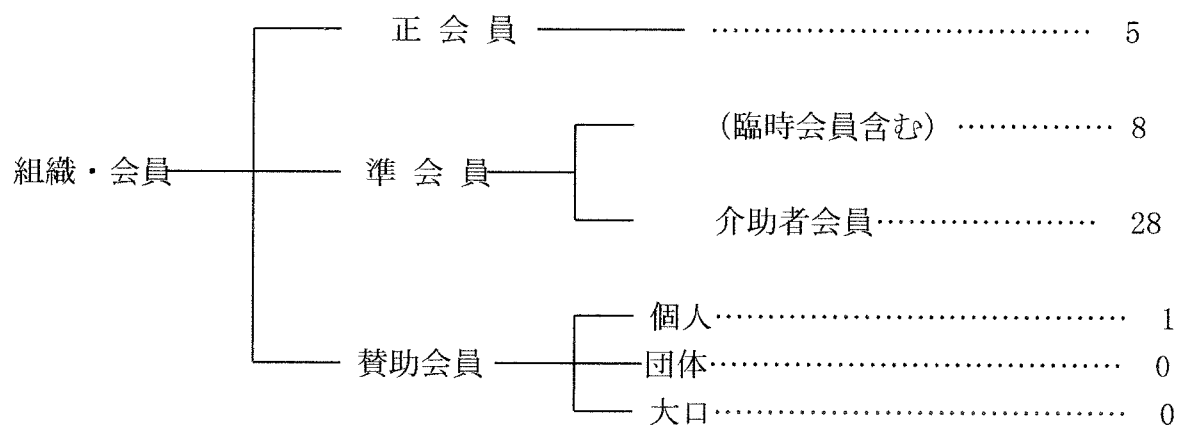
1. 開会の挨拶 ..... 代表 長位 鈴子
2. 議長選出
3. 議事録署名人（2名）及び書記（1名）選出
4. 議 事
  - (1) 平成29年度 事業報告 .....各担当者
  - (2) 平成29年度 決算報告並びに会計監査報告 .....会計主任 島袋洋祐
  - (3) 平成30年度 事業計画（案） .....各担当者
  - (4) 平成30年度 予算（案） .....会計 富里和幸
5. 質疑応答 ..... 議 長
6. 一括承認 ..... 議 長
7. 閉会の挨拶 ..... 代 表 長位 鈴子

※ 総会終了後、懇親会を行いますので是非ご参加ください。

☆ ☆ ☆ 懇 親 会 ☆ ☆ ☆

2017(平成29)年度 事業報告書  
(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

1. 組織と会員数



2. 職員数・会員数

	職員数 ①	退職者 ②	合 計 ①-②=③	備 考
常 勤 職 員	6	0	6	
非 常 勤 職 員	0	0	0	

	男	女	合 計	備 考
自立生活者	11	8	19	
家族同居者	11	4	15	
施設・病院	0	0	0	

平成29年度 事務局活動報告  
(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

月日	内 容	月日	内 容
<b>平成29年</b>		3～6日	吐合美由紀さんを偲ぶ会 鹿児島
<b>【4月】</b>		4～6日	自立生活塾 八重山
3～5日	定例会 全体交流(ポッチャ)	9日	沖縄バス職員研修
6日	JICA沖縄草の根技術協力事業合同 報告会	18～21日	自立生活塾 中南部
13～14日	ファシリテーター&リーダーシッ プ入門講座 CILほにゃらにて	23～25日	自立生活塾 北部
18～20日	推進協会研修	24～26日	自立生活塾 宮古島
24日	CILポカラ(ネパール)支援ビラ配 り 県庁前広場	<b>【9月】</b>	
3/6～4/27	フィリピンより研修生受入れ	8/28-9/25	JICA研修受入れ
<b>【5月】</b>		8/31・1・4	定例会 ロールプレイ
1～2日	定例会 食中毒・熱中症について	5～7日	介助実技講習会
8日	沖縄県障害者社会活動推進事業補 助金交付決定	19～20日	推進協会研修
8日	CILカトマンズ支援スカイプ会議	24～28日	ユースIL合宿in滋賀
27日	JICA研修受入れ	28～29日	JICA研修受入れ
<b>【6月】</b>		<b>【10月】</b>	
5/31・1・2	定例会 自立生活センターについて	1日	はごろも祭り カチャーシー大会
3～6日	CIL台湾10周年パーティー	2～4日	定例会 ADA報告会(宮城秀明)
16日	沖縄CIL総会	4～6日	球陽高校インターンシップ受け入れ
21日	沖縄バス職員研修	7・15・21	インクルーシブ運動会 実行委員会
19～21日	JIL総会 仙台	8～21日	JICA草の根事業 ネパール政府に対するアドボカシー活動
22～23日	JICA研修 成果発表会	17～19日	真志喜中学校インターンシップ受け入れ
27日	障害者とコミュニケーション 講師 沖縄大学	<b>【11月】</b>	
<b>【7月】</b>		1・2日	定例会 防災について
6/30・3・4	定例会 制度について	11/11～12/12	ネパール障害当事者研修受け入れ
1日	インクルーシブ 相談支援事業廃止	13日	沖縄バス職員研修
<b>【8月】</b>		22～24日	JIL九州ブロック研修
1～3日	定例会 腰痛対策	25日	インクルーシブ運動会
		28日	障害平等研修
		<b>【12月】</b>	
		11/30・4	定例会 ストレスチェックについて
		12日	沖縄バス職員研修

月日	内 容	月日	内 容
12日	AJU職員研修		
9・10日	インクルーシブ教育シンポジウム 琉球大学		
18～20日	JIL全国セミナー		
27・28日	1月定例会(鍋パーティー)		
28日	仕事納め		
<b>平成30年</b>			
<b>【1月】</b>			
4日	仕事始め		
15～2/16	JICAエンパワーメント研修受入れ		
19～21日	事業計画合宿		
20～27日	絵本読み聞かせ 児童館など		
25日	インクルーシブ教育プロジェクト 会議		
<b>【2月】</b>			
1/31・1・2	定例会 救命救急		
12～14日	自立生活プログラム集中講座		
16日	鏡が丘特別支援学校職員向け講演		
21日	JIL関東ブロックの研修会 「精神障害者をスタッフにむかえ るために」		
21～23日	DPI主催「質の高いインクルーシブ 教育」勉強会		
22日	宜野湾市自立支援協議会総会		
26日	学校見学(八洲学園など)		
<b>【3月】</b>			
2/28・2・3	定例会 AKOちゃん講演会		
8日	沖縄バス職員研修		
17～18日	CILほにやら主催 「ファシリテーター養成講座」		
19日	損保ジャパン助成金贈呈式		
26～27日	JIL九州ブロック研修 福岡		

# 平成29年度 ピアセンターイルカ

## 相談支援事業（事業報告）

### ピアセンターイルカの事業内容と説明（図1）

#### 〈基本相談支援（委託相談支援）・障害児相談支援〉

自立生活を共に実現していく為に、障害当事者や家族、関係機関（病院、行政、事業所）等からの相談に応じ、本人を中心として必要な情報の提供、社会生活を高める支援、助言、権利擁護、専門機関等と連携を図りお互いにエンパワメントしていく視点を重視しています。また、相談支援事業を効果的に実施する為、自立支援協議会の運営、社会資源の開発や改善を推進していく役割があります。

#### 〈計画相談支援・障害児計画相談支援〉

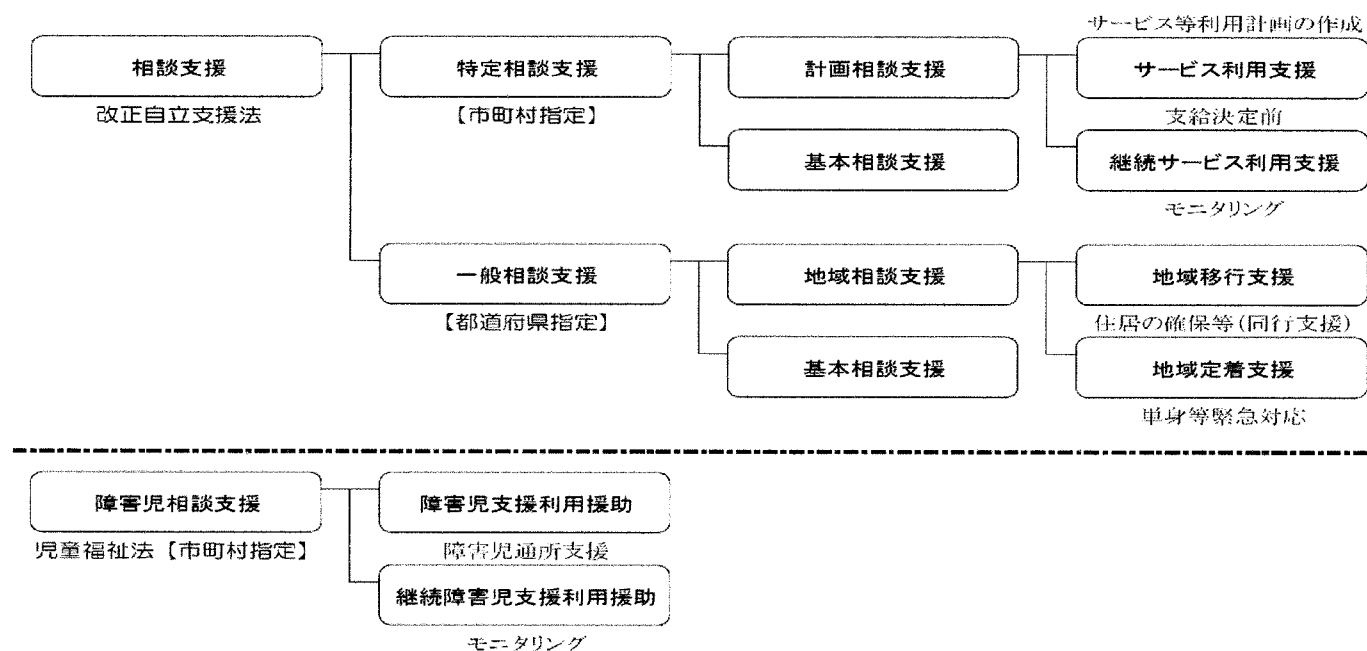
障害当事者や家族からの相談に応じ、心身の状況や家族状況、どういう生活をしていきたいのか想いを聞き取り、サービス等利用計画を作成していきます。障害者（児）の自立生活に対する一人ひとりの想いを関係機関と共有し、想いを実現する為の方法を一緒に考えていきます。

#### 〈地域移行-地域定着支援〉

地域移行支援…入所施設や精神科病院等からの退所・退院にあたって本人と共に自立生活の実現に向け共に取り組んでいきます。

地域定着支援…入所施設や精神科病院から退所・退院した方、家族との同居から一人暮らしになった方、地域生活が不安な方に対し、24時間の連絡体制及び支援体制を整えるシステムです。

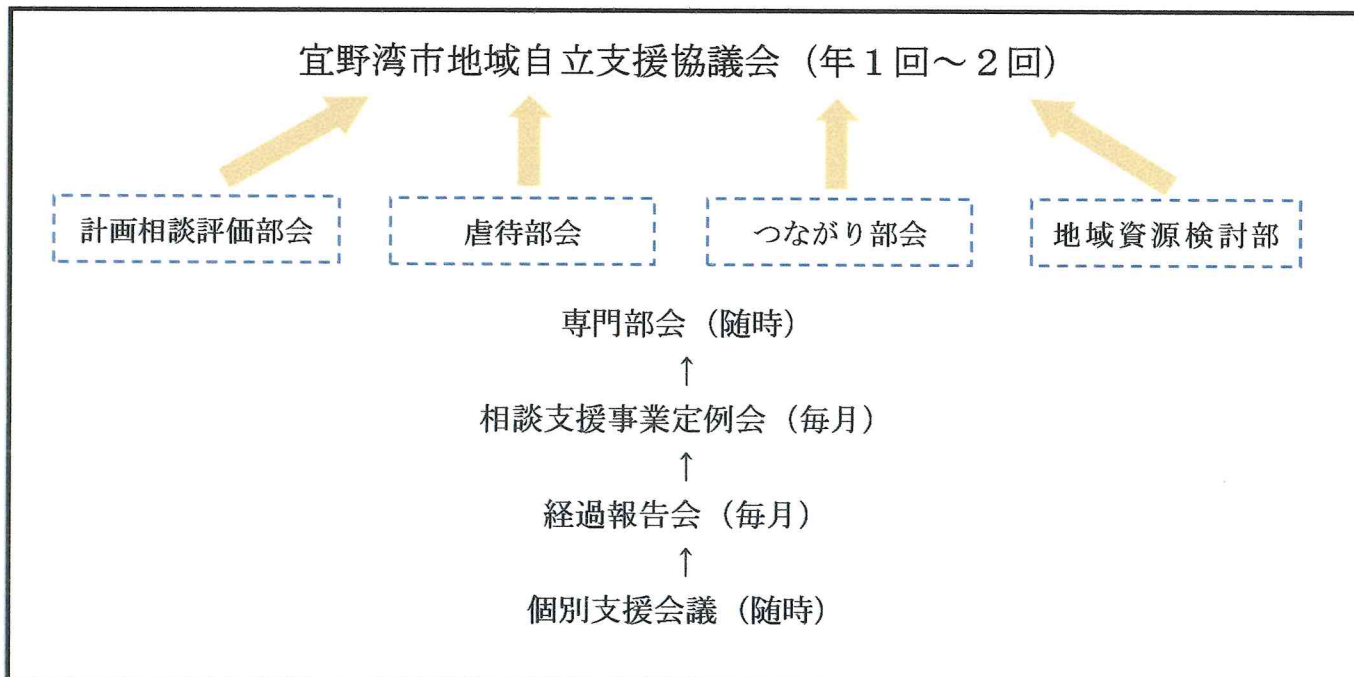
図表 1 障害者自立支援法改正後の相談支援の体系



※自立支援法のサービスは自立支援法の相談支援で対応

## 平成 28 年度 宜野湾市地域自立支援協議会

### 宜野湾市地域自立支援協議会と相談支援の流れ



### 宜野湾市地域自立支援協議会とは？

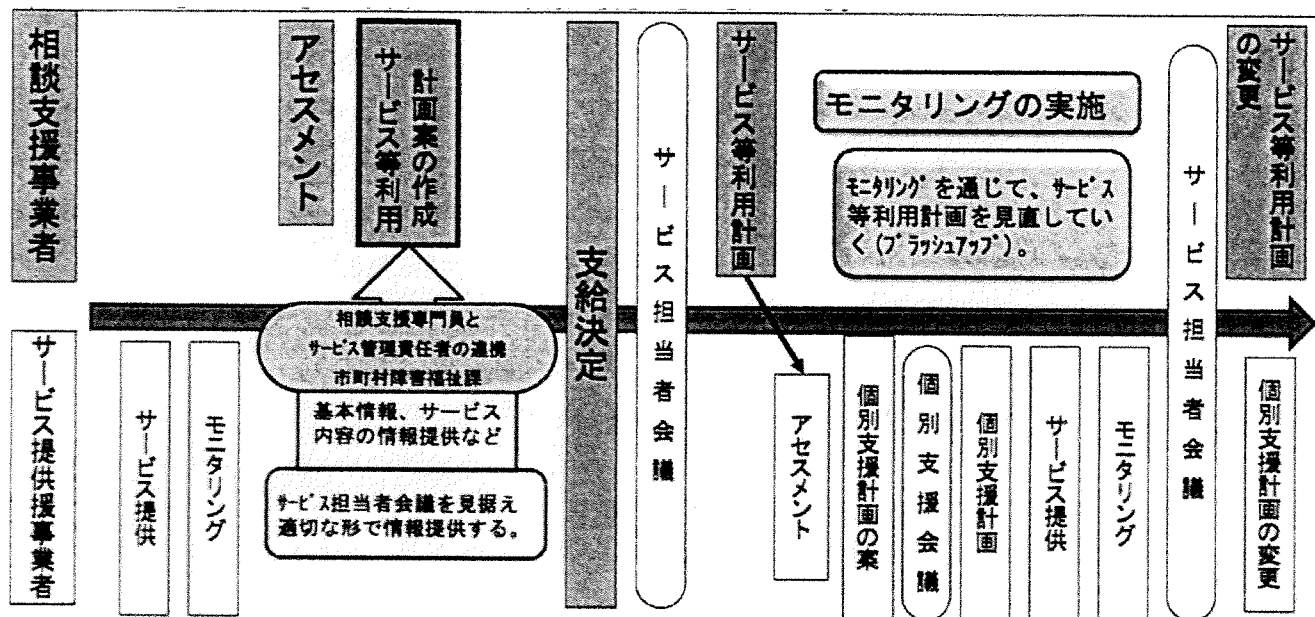
障害のある人もない人も共に暮らせる地域をつくるため、様々な職種の関係機関が情報を共有し、地域の課題解決に向け協議を行うための会議です。

- ① 情報機能／地域の現状、課題等の情報共有と情報発信
- ② 調整機能／地域の関係機関によるネットワーク構築・支援のあり方に対する協議や調整
- ③ 開発機能／社会資源の開発・改善 課題解決に向け専門部会の設置
- ④ 教育機能／構成員の資質向上の場
- ⑤ 権利擁護機能／権利擁護に関する取組の展開
- ⑥ 評価機能／委託相談支援事業者の運営評価等

### 宜野湾市地域自立支援協議会の構成員

- ① 委託相談支援事業所 代表 (イルカ、グリーンホーム)
- ② 地域活動支援センター 代表 (はぴわん)
- ③ 医療関係者 (玉木病院)
- ④ 民間事業者 (不動産業者会、就労支援事業所)
- ⑤ 行政 (福祉関係各課、教育委員会、ハローワーク、警察署、消防、社会福祉協議会)

★指定特定相談支援事業者（計画作成担当）と障害福祉サービス事業者の関係



サービス等利用計画とはご本人が中心となって相談支援専門員と共に作成するものであり、生活介護や居宅介護などの個別支援計画はサービス管理責任者、サービス提供責任者が作成します。

サービス等利用計画は、本人支援のための中心的な総合計画(トータルプラン)として作成され、他の計画はその中にそれぞれ個別の支援計画として位置づけられています。

相談支援専門員は各サービスの個別支援計画とサービス等利用計画との間にくいちがいがないように、サービス提供事業者と計画の内容についてご本人またはご家族を含めたサービス担当者会議で共有していきます。



<平成29年度に取り組むこと>

- ①イルカ内部のみでの関係にとどまらない。イルカの理念を伝えながら、他機関や地域の人たちとの関係を深めていく。
- ②一人で抱え込まず、内部で情報共有や連携を図る。
- ③福祉制度や法律等、様々な研修に参加し、情報共有を図る。

<平成29年度の取り組みに対しての進捗状況と改善方法>

障害者相談支援事業所ピアセンターイルカ

課題①イルカ内部のみでの関係にとどまらない。イルカの理念を伝えながら、他機関や地域の人たちとの関係を深めていく。

進捗状況：イルカ主催の勉強会の呼びかけや宜野湾市内のワーキング部会、その他外部機関のイベントなどに積極的に参加しながら多職種他機関の関わりを広げつつある。

改善方法：今後も継続していくことが重要である。

課題②一人で抱え込まず、内部で情報共有や連携を図る。

進捗状況：自立生活センター・インクルーシブと共に定期的に内部会議を実施し、事例検討したりしてお互いの持つケースについて相談し合うことができている。

改善方法：今後も継続していくことが重要である。

課題③福祉制度や法律等、様々な研修に参加し、情報共有を図る。

進捗状況：様々な研修に参加することはできているが、その情報をお互いに共有する時間を取ることが難しい。

改善方法：日々の業務があり、そのことについて話をする機会を作ることが難しいので、研修でもらった資料を配り、各自で目を通しておくようにする。

## 沖縄県内相談支援事業所の課題

課題①当事者が希望するセルフプランが認められない事が多い（セルフプランを受け付けない、望んでいないサービス申請を促される等）。

進捗状況：市町村によってセルフプランの受け入れが難しいという現状がある。そんな中でも平成29年度イルカ内でのセルフプランへの移行者は宜野湾市1名、沖縄市1名である。

改善方法：当事者と共に作成し自身の想いを発信していけるよう、共に力をつけて行く。  
各市町村へ、セルフプランの受け入れを随時交渉していく。

※セルフプランは全て本人の一律自己責任と捉えられがちであり、尚且つセルフプランのフォロー体制がどうなっているのか明確でない現状がある。しかし、本人任せだけでなく、自宅訪問や定期面談等行政からのアプローチも必要であると思われる。その人により、セルフプランに移行する過程で何かあった時のことを一緒に考えていきながらプランを組み立てていくことが必要であり、それが本当の自己責任の在り方なのでは？と考えている。また、セルフプラン作成者自身がロールモデルを見つけ、相談できる人を見つけることや自分で決めたいこと相談したいことを自身で整理していく力をつけていく必要がある。自分の選択したい道を自信をもって他機関と細く長くやり取りし続けていく力も必要である。

課題②全体的に計画相談員が不足している。また、通所している事業所から学校等と連携したいがどこに相談したらよいか分からない、サービスはしばらく使う予定はないが相談を受けてほしい等其他事業所の相談員の動きが十分でないということで、計画相談の依頼がある。

進捗状況：計画相談員の技量により調整等に時間を要したり、一般相談での受け入れができていない状況がある。ピアセンターイルカでは丁寧な関わりを重視しているため、多くのケースを受け入れることは難しいが、29年度は新規のケースを3件引き受けている。

改善方法：相談があったご本人・ご家族には必要に応じ当事者との関わりをもちながら、ご本人・ご家族を中心とした解決に向かう動き等を共に模索していく。

## <平成30年度に取り組むこと>

- ①昨年度に引き続き、イルカ内部のみでなく、まずは宜野湾市内の事業所を知り、他機関や地域の人たちとの関係を深めていく。
- ②1人で抱え込まず、内部で情報共有や連携を図る。
- ③福祉制度や法律等様々な研修に参加し、情報共有を図る。
- ④計画相談・委託相談での関わりの中で、当事者（児・者）とそのご家族がイルカのイベントや活動を通して、ピアと関わる機会を作れるよう、パイプ役としての役割を担えるようにしていく。また、「自立」について共に考え合える関係性を築いていけるようにしていく。

# 平成 29 年度 自立生活プログラム集中講座 報告

1 事業名 : 自立生活プログラム集中講座

2 事業費

総事業費	助成対象経費	助成金充当額	自己資金
566,981 円	552,000 円	441,000 円	125,981 円

3 実施内容・成果

【内容】平成 30 年 2 月 12 日(月)～14 日(水)、健康文化村カルチャーリゾートフェストーネにて 2 泊 3 日の宿泊形式にて開催した。

リーダー(講師)として自立生活夢宙センター(大阪府)から内村恵美氏、自立生活センター星空(愛媛県)から井谷重人氏を招き、鹿児島県から 1 名、県内から 3 名の合計 4 名の受講生に対し自立生活プログラム集中講座を開催。

プログラム内容については、事前に受講生の声拾い上げながら自立に対するイメージをもってもらおうというプログラム内容を検討していたが、実際に介助サービスを使い自立生活を行っていない受講生もいたため、プログラム内容を変更し、介助者を使いながら地域での生活をイメージしてもらうということでフィールドトリップを取り入れながら行うこととなった。

プログラム初日は、実際にやってみたいことを 3 グループに分かれ話し合いを行い、2 日目にグループごとに自分たちが考えたプランにて公共交通機関を利用しながら行きたい場所へ向かい各々の目的を達成していた。その中でも、初めて公共交通機関を利用する当事者もいれば、介助スタッフに介助の指示を出しながら食事介助・外出介助等を行う当事者もいて、それぞれが自立生活のイメージを具体的に持つことができた。また、実際に地域で自立生活をしている当事者は普段の介助者との関係性を今一度見直す機会になった。

【成果】今回は受講生が 4 名という少人数であったが、少人数にすることによって、受講生同士またリーダーとの距離も縮まることができ、自立生活プログラム集中講座終了後も参加した全員が各々連絡を取り合っていることは、自立生活をするうえで、お互いにエンパワメントできる仲間ができたことと感じている。

## 平成 29 年度 PAI おきなわ（生活介護事業）報告

	平成 28 年度	平成 29 年度
利用者数	8 名（男性 7 名 女性 1 名）	9 名（男性 8 名 女性 1 名）
生活介護支援員	常勤専従 2 名 非常勤兼務 15 名	常勤専従 2 名 常勤・非常勤兼務 15 名

### ◎事故件数

日時	平成 29 年 7 月	平成 30 年 3 月
件数	1 件	1 件
発生理由	サービス提供中の転倒・転落事故	サービス提供中の転倒・転落事故
概要 対応策	<p>車いすのブレーキをかけて忘れその場を離れてしまい、その間に車いすが流れ歩道の縁石から転落する。転落時、擦り傷と胸を強打するが家族と話し合い、様子を見て病院受診をすることとなった。</p> <p>再発防止のため、車いすの操作方法・安全確認等を徹底することを支援員へ周知、野外活動の際は利用者が一人になることを避け、利用者や支援員と一緒に行動し見守り等を行っていく。</p>	<p>経験的活動のため支援員 1 名、利用者 2 名で外出。近くのバス停に向かっている途中の道のりにて段差から道路に転落する。転落時、擦り傷と口を強打し出血。近隣住民が発見し救急車にて病院へ搬送。普段から通っている道ではあったが、道路工事中で新しく道が広がっていたり段差があったりする箇所があった。</p> <p>再発防止のため、外出時における人員配置についての見直し・改善を行うとともに、外出時の道路状況などの安全確認を今一度行うことを徹底する。外出時の支援員は道路や車の状況などを利用者に説明しながら外出活動を行っていく。</p>

### ◎総評

29 年度は生活介護利用者が 1 名増、生活介護支援員は常勤専従 2 名、常勤・非常勤兼務が 15 名となり活動した。

29 年度は生活介護利用中の転落事故が 2 件発生し、どちらも支援員が近くにいたにも関わらず目を離している間に起こった事故でした。支援員の人員不足もありますが外出活動時には支援員の体制を見直し、危機管理意識を昨年度よりも更に意識していきながらサービスにあたっていきたい。

生活介護利用の当事者が中心となったイベント等も増えてきたため、当事者と密に連携をとりながらイベントが成功できるように 30 年度は努めていきたい。

## 平成 29 年度 生活介護 年間報告

月	内 容
4 月	13 日・ピクニック（海洋博） 24 日・ネパール地震ビラ配り 27 日・フィリピン当事者研修発表 [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
5 月	25、30 日・バス研修 [定期活動]定例会参加、介助者募集ビラ配り、リサイクル作業
6 月	16 日・いるか総会 21 日・バス研修 22 日・風船バレー大会（きょうされん） 27～29・中学生職場体験 29 日・職場体験学習発表 [定期活動]定例会参加、介助者募集ビラ配り、リサイクル作業
7 月	15～16 日・キャンプ（証史さん企画） 20 日・講演会（与那原社協、「性について」 21 日・「てんかん」についての勉強会 ※はごろも祭りカチャーシー大会練習を開始する。 ※自立生活塾に向けての活動を開始する。 [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
8 月	9 日・バス研修 18～20 日・自立生活塾（ネイチャーみらい館） [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
9 月	20 日・バーベキュー会（祐子さん、和希さん企画） 21 日・ポッチャ大会（きょうされん） 16 日・生と性についての勉強会（与那原社協） [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
10 月	1 日・はごろも祭りカチャーシー大会 4～6 日・中学生職場体験 ※インクルーシブ大運動会の呼びかけや協賛周りを始める。 [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
11 月	9 日・虐待防止についての講演会（宜野湾市民会館） 25 日・インクルーシブ大運動会（伊佐第二公園） [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
12 月	7 日・辺野古抗議集会 7 日・学習交流会（きょうされん） 12 日・バス研修 22 日・忘年会（あばらぎ） ※平等絵本読書会に向けての準備活動を開始する。 [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
1 月	17 日・書初め大会（鯨さん企画） 23 日・ムーチャー作り 17 日・ピアカウンセリング公開セミナー（名護市） [定期活動]定例会参加、介助者募集ビラ配り、リサイクル作業
2 月	5～24 日・平等絵本読書会（計 7 回） [定期活動]定例会参加、介助者募集ビラ配り、リサイクル作業
3 月	13 日・新春交流会（きょうされん） [定期活動]定例会参加、介助者募集ビラ配り、リサイクル作業

## 平成 29 年度 生活介護 行事報告

### [目的]

- ・ 様々な講演会に積極的に参加し、知識を深めていく。
- ・ 全体的なイベントを通して仲間と共に行動する過程で、他者を理解し障害種別の壁を越えて協力していく。
- ・ 他方面での連携を図り地域で自分らしく生活することをめざし、意欲あふれる活動の場とする。

### [活動]

#### 1. 社会活動

- ・ 絵本の読み聞かせ、カチャーシー大会、インクルーシブ運動会、リサイクル活動などを通して、地域との交流を積極的におこなった。バス運転手研修や各種イベント参加により他方面での活動に取り組めた。

#### 2. 仲間作りを意識した活動

- ・ きょうされんを通して、様々な障害をもつ仲間とイベントに参加することにより、他団体との交流を深めることが出来た。
- ・ 全体のイベントを通しては、それぞれ役割分担をしながら活動しているが手が足りない部分では、お互いに声を掛けあいながら協力している姿が多く見られ、みんなで成し遂げたという達成感が感じられた。

#### 3. まちづくり

- ・ 個人の企画を通して色々な場所へ出かけ、楽しみながらもバリアフリーチェックや清掃活動をおこなう事が出来た。

### [反省点]

- ・ 個人の企画などは他のイベントとかさなったり、準備不足などにより実行できない事が多かった。時間的にもっと余裕をもち話し合いの時間を多く持つべきだった。
- ・ 外出時の対応で、体調不良や怪我に対して危機感をもち、素早く対応できるような体制を整える。

## 自立生活における健康管理雑感

### (生活介護の関わりの中で見えてきた事)

イルカの生活介護に関わって、5年程になる。その中で色々な人の姿を見させてもらった。

新しく自分らしい生活を始めた人。又始めようとしている人。生活をしていく中で紆余曲折をしながら、日々自分と向き合い、自分らしい生活を獲得しようと奮闘している人。

又、イルカでの関わりの中なかで、これまで喪失している様に見えていた自分らしい人格や人生を取り戻した人の変化などである。

このような様々な変容を創り出しているのは、当事者の自立に対する意識と、スタッフの細やかな気づきと、当事者と関係者の、改善に向けての粘り強い取り組みの成果であると思う。日々感動しながら関わらせてもらっている。

そのような生活を見ている中で、看護師として気になることが幾つかある。

その一つは食生活の事である。小学校、中学校、高校と、親や栄養士によって管理された環境の中から、自分で作って食べる生活に変わっていく。好きなものを好きな時に、好きなだけ食べられる、と言う喜び。(それと同時に作る大変さもあると思うが。)

それに伴って栄養面で偏った食生活になってしまう事が考えられる。

その結果、自立生活が長くなるに連れて、体重の増加、健康診断の血液検査値の悪化などが見られる様になってしまうという傾向にある。

生活介護や居宅介護の生活の中で、食生活に関して、楽しさ、美味しさを追求するだけではなく、栄養のバランスも考慮した食事作りを支援員や介助者と一緒に考え、取り組んで欲しいと思っている。

楽しく、充実した自立生活を過ごすために、今一度、健康面、食生活面に目を向けて取り組んでもらいたいと思うこの頃である。

看護師 照喜名清子

## 平成 29 年度実習・就業体験受け入れについての報告

### 1. ぐしかわ看護専門学校在宅看護論実習

#### 【受入状況】

回数	1クール	2クール	3クール
日程	6月12日	7月3日	9月20日
実習生	上江洲安洋	久田朋代	高江洲愛花
	池宮城学	浦川陽名	林聖
		大城奈央	幸喜綺音

#### 【実習生の声】

- 障害があることで、できる事、できないことがあるかもしれないが、それを決めるのは周りの人ではなく当事者であって、周りの人自立に向けた支援を考える必要があると学び、考えを見つめ直すきっかけを持つことができました。
- 施設ではプログラムにのっとって生活を行う状態で、入浴の時間や就寝の時間、トイレの時間まで決められていて、自分たちみたいに自由がないことがあるなど、初めて聞く内容だったので驚きが隠せませんでした。自分たちが今まで何気なく行っていた自由がこんなにも抑圧されていたからこそ、自立支援センターの必要性を深く感じる事が出来ました。

### 2. 大学生社会福祉実習見学

【受入状況】 沖縄病院 児童指導員 1名

沖縄国際大学 2名

平成 29 年 8 月 31 日～9 月 1 日

#### 【実習生の声】

実際に車いすに移乗し、自走して体験室や買い物に出かけたことが深く 印象に残っているようです。普段は感じない道のちょっとした段差や、きに気づき、様々な思いを巡らせた。

### 3. 高校生就業体験

#### 【受入状況】

学校	日付	受入人数
普天間高等学校	10月4日(水)1日～6日(金)	1名

#### 【実習生の声】

一人暮らしている当事者のお宅訪問は実際にヘルパーさんやリハビリの方か色々お話を聞いて、初めて知った事がたくさんありました。車椅子の体験で買い物行くとき周りの環境がまだ整っていないことを感じました。



#### 4. 中学生職場体験学習

##### 【受入状況】

真志喜中学校受入人数 6名

平成29年6月27日（火）～29日（木）

平成29年10月17日（火）～19日（木）

##### 【実習生の声】

- ポッチャをして障害がある人もない人も誰でも楽しめる競技だなと思いました。
- 紀美さんから読み聞かせをしてもらって、平和の象徴である黄色リボンがあることに初めてわかりました。
- 車いすの体験で乗る人と介助する人に体験しました。道は悪くて、乗る人も押す人も大変だった。

##### 【担当者より】

7年目を迎えたぐしかわ看護専門学校の実習受入れも1日という短い時間ではあるが、当事者と関わり・共に行動することで多くの会話が生まれ、その中から色々な気づきがあり、実習が終わる頃には学生自らコミュニケーションをし、時間が足りない様子も見られた。また、高校生就業体験・中学生職場体験の受入も定着しており、学生たちの素直な思いや素朴な疑問などが新鮮であり、担当するスタッフにとっても多くを話し、伝えることができたと感じている。

今後もこの実習を大切に取り組んでいき、受け入れるだけでなく実際に学校へ出向き、講話などの講義を行ったり、主催するイベントのボランティア参加の呼びかけ等で繋がり・継続し・広げていきたい。

# 平成 29 年度アクセスフリー年間報告

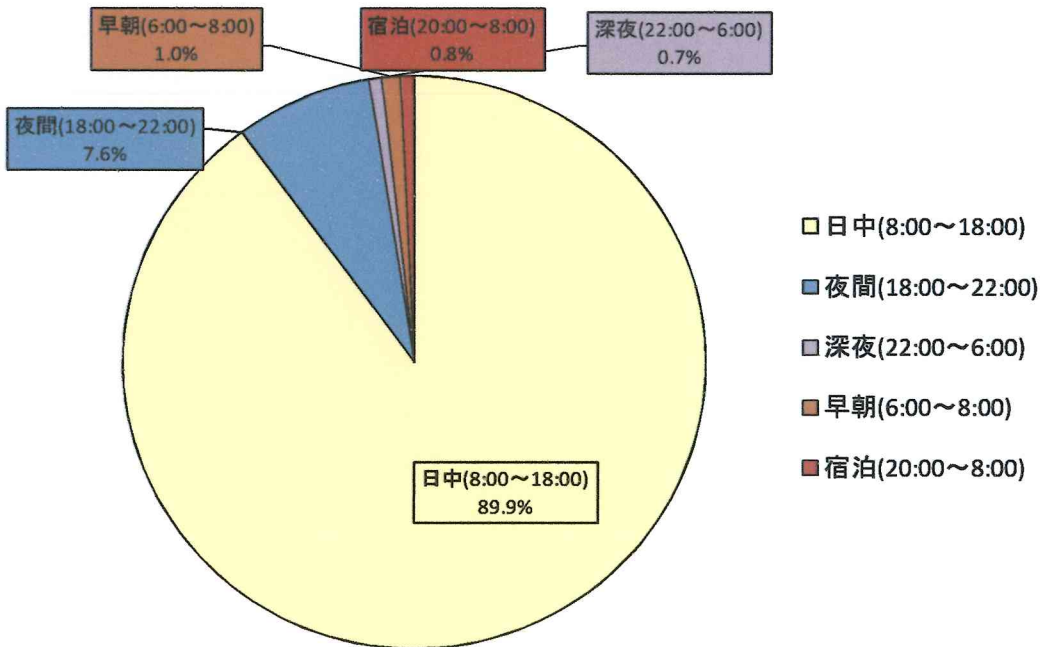
## 有償介助サービス状況

### 1) 提供件数・人数・時間 (平成29年4月1日～平成30年1月31日)

	有償介助依頼件数	有償介助サービスを提供した介助者数(人数)	介助サービス時間数
男性	577 件	577 人	1,935.5 時間
女性	1,719 件	1,719 人	4,476.5 時間
合計	2,296 件	2,296 人	6,412 時間

	有償介助依頼件数	介助サービス時間数
その他	305 件	692 時間

### [時間帯別利用割合]



日中帯の利用が多い。  
早朝夜間帯の利用は日中帯に比べて低い。

### 2) 業務内容 (平成29年4月1日～平成30年1月31日)

内容	回数	備考
派遣・調整・問い合わせ	随時	
月末介助料集計	12	

### 3) 有償介助年間報告・効果・課題

#### (報告)

- ・ 平成30年1月分までの集計。2月分より PAI おきなわに業務移行になった。
- ・ 平成29年度は、全て同性介助であった。
- ・ 前年度と比べて全体では介助依頼は減少したが、入院中の利用者の病院内外での介助は増えた。

#### (効果)

- ・ 同性介助が当たり前になった。利用者、介助者双方の意識が徹底出来た結果である。
- ・ 入院中は公的介助サービスが使えないため、有償介助サービスを利用する事になった。

#### (課題)

- ・ 公的介助サービスで不足した支援を補う位置づけとなっている。地域でどう生活していくのか当事者自身がしっかりとしたライフスタイルを持てるようにし、様々な立場から支援出来るよう連携を深めたい。
- ・ 今後も同性介助の徹底に努めたい。
- ・ 慢性的な介助者不足を解消し、余裕のある派遣にしたい。

## 移送サービス状況

### 1) 提供時間帯・件数・人数

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

時間帯	社用			私用	総計
	日中	夜間・早朝	深夜		
件数	1810	706	23	158	
延人数	5210				
合計件数	2539			158	2697

- ・ 早朝 6:00～8:00
- ・ 日中 8:00～18:00
- ・ 夜間 18:00～22:00
- ・ 深夜 22:00～6:00

### 2) 業務内容

内容	回数	備考	
運転実習	2	参加人数2名	
派遣・調整・ 問い合わせ	随時		
月末運転手料集計	12		
車検	2		
点検	1		
修理	8	バッテリー・オイル交換 タイヤ交換 リフト修理 固定装置修理 シリンダーコイル交換 ブレーキパッド交換 ベルト交換 (ファンベルト パワステベルト)	エアコン修理 ハンドル異音

## 4) 移送年間報告・効果・課題

### (報告)

- ・ 社用移送は、平成 30 年 2 月分より PAI おきなわの業務移行となった。
- ・ 毎日の運転手の確保が難しい。  
※深刻具合は、アクセスの他の業務が出来ないほどである。
- ・ 交差点での追突事故がおこった。  
※車間距離のなさが原因である。
- ・ 車両の老朽化により、修理や点検・調整などが増えた。  
ステップが出ない、エンジンから異音、固定器具の故障も増えている。ファンカーゴは廃車、シエンタはインクルーシブ事業所で使用予定
- ・ 公共交通機関の時間帯、ルートに合わないこともあり事務所に頼っている状況である。

### (効果)

- ・ 利用者自身が移動手段を考えるようになってきた。
- ・ 運転実習で、各車両の操作技術、安全面の指導が行われた。
- ・ 三角停止表示板を全車両に搭載し、高速道路への安全な走行に万全を尽くした。

### (課題)

- ・ 運転手の確保が厳しい。事務所での介助時間前後に移送勤務を組み込むなど、利用者、コーディネータと共同で取り組むシステムを構築する。
- ・ 車両の清掃・点検を定期的に行う。

## 平成 29 年度 自立生活センター インクルーシブ

### 活動報告 (2018. 6. 22)

本年度は昨年に続き、訪問者が落ち着いて話ができる環境作りを心がけおり、ピア・カウンセラーによる精神障害を持つ方への電話や訪問などの相談対応、他団体のピア・サポーターと連携を取りつつ、数回の病院訪問を行いました。

また今年度の取り組みとして、新たなピア・カウンセリングの拠点作りに取り組み、障害種別を越えたピア・カウンセリングを行う事ができました。

#### ●電話相談や訪問について

インクルーシブでは、電話や来所があった際に、その方が落ち着けるように雰囲気作りを常に意識して活動しています。また、訪問して頂いた方で生活面などでの悩みや引っかかることがあれば、傾聴し、負担を減らす方法を一緒に考え取り組んでいます。詳細は次の通りです。

事例 1 : A さん (男性 統合失調症) 1 人暮らしを实践。体調の不安定さからインクルーシブに来ることは難しく、以前から日々の悩みごとを電話相談にて対応している。昨年「薬を多量に飲んでしまう事が多くなった。どうしたらいいかわからない」という相談があり、ヘルパーに薬の管理を手伝ってもらう事を提案。普段から人間関係に不安があるそうで、当初は他人 (ヘルパー) を家に入れる事に抵抗感があったが、電話でのやり取りで少しずつヘルパーを入れることができた。その後、服薬状況は安定しつつあり、訪問看護も受け入れることができ、ヘルパーへの抵抗感を減らすチャレンジを続けている。

事例 2 : U さん (うつ) 自立生活を实践する当事者で、以前は病院訪問などで共にピア活動を行っていた。出産を機に子育てに奮闘している。定期的にインクルーシブに訪問して頂いており、日頃の悩みやうっぶん、子育ての事をピアカウンセラーと共有、インクルーシブの目指す精神当事者の居場所作りに欠かせない一員である。

事例 3 : Z さん (うつ) あるイベントで出会ったことをきっかけに関わり始める。以前に就労事業所やデイケアなどを経験したがどれも合わず、居場所作りに困っている。ピア活動に興味があり、自分のできる事を探している。初訪問後に家族が訪問。家族も本人の居場所が欲しいという思いから、不定期訪問を提案する。その後は 2 度ほど訪問されるが連絡が途絶えている。今後は本人に合った声かけや提案の方法を工夫する必要がある。

感じたこととして、相談はできても直接的に関わっていないということがあります。実際に一度訪問されてもその後に連絡がもらえない方もいますし、中には大きな悩みを抱えたまま訪問されなくなった方もいます。また、インクルーシブの近くにも、普段だれにも悩みを相談できない精神障害を持つ方が少なくないことが印象的です。

もう一点は精神障害があり、かつ居場所が無い方の存在です。家族とはおりが合がつかず、医療系・福祉系のサービスも合わない方が現実にあります。インクルーシブの近くにもそういった悩みを持つ方がいらっしゃることも分かりました。インクルーシブに来て頂いている方々からは「落ち着ける雰囲気で良い」と言って頂けることもあります。そういった方々のためにも、インクルーシブのような場所が必要だと考えます。那覇市内にも憩いの場として受け入れる事業所がありますが、十分とは言えません。

今後は一人ひとりと対話をしながら、精神障害があっても暮らしていける社会を目指して居場所作りに取り組めます。

## ●ピア・カウンセリングの拠点作り

インクルーシブでは、ピア・カウンセリングを日常生活の中でどう生かせるのか、自由にそれを行える場所が必要だと考えています。これまでピア・カウンセリングの講座を受けた方々の中に、日常生活でピア・カウンセリングを生かすことができず、そもそも1対1でセッションができる場所がないという声がありました。そこで活動の1つとして、ピア・カウンセリング、特にセッションができる場所としてインクルーシブを開放しています。インクルーシブでは、普段集まるフロアとは別に相談室を設けています。セッションをする日には、互いに時間を分け合いながら相談室を活用し、日々の生活の中で抱えている悩みや思いを引き出しあっています。

昨年の12月から実験的に取り組んでいましたが、予想よりも好評でした。そこで今年の2月から月2回に変更し、これまで合計9回ほど実施しています。時間をゆったりと使って、落ち着いた雰囲気セッションを行うことが、インクルーシブでのピア・カウンセリングの特徴だと思います。この活動を継続する上でイルカのピアカンメンバーが欠かせません。これからも皆さんから力をもらえると嬉しく思います。

また、北部自立生活センター希輝々と共同のピア・カウンセリングも行っています。これまでのインクルーシブで行ってきたピアカンとも違う活発な掛け合いができています。希輝々の皆さん、いつもありがとうございます。



## ●病院訪問

病院訪問はインクルーシブにとって大切な取り組みです。昨年度から現在、6回程度行いました。報酬としては1回の訪問につき1,000円から2,000円程度を頂いています。病院訪問にはピア・カウンセラーやピア・サポーターの力が必要ですが、現在は人材不足である状況です。そこで沖縄市にあります「ワークプラザユニティ」の比嘉さんの協力を依頼し、継続することができています。

受け入れ先である「サマリア人病院」では、今年の4月から病棟内での受け入れをして頂いており、病院で生活を送る方々とお話する機会（ピア交流会）の場を得ることができました。今までは小さなティールームで行っており、参加する方が決まっていたのですが、病棟に入れる事ができてより多くの方と接する事ができ、病院訪問のPRになりました。このことによって少しずつ自信と手応えを得ています。病院訪問先のケースワーカーさんによると、病棟で暮らす方の内、60名の相談を1人で受けているので、ピアの人達が話を聞いてくれて大変助かっていると評価して頂いています。

病院で暮らす方はご高齢の方が多く、退院の話は中々されませんが、涙を流しながら話をされる方、嬉しくて歌を歌ってくれる方、昔の思い出話をしてくれる方等が増えてきており、ピア・カウンセリングの重要性を実感しています。今後はより多くの方と接しながら、退院につながる話に進めるアプローチをする事が求められます。また、病院訪問についても、これまでのやり方では不十分であり、病院訪問によって体調や気分を悪くするメンバーもいましたので、訪問団の中でのルール作りはどうしても必要です。精神病院の病院訪問は、全国の自立生活センターでも例が少ないので、しっかりとした体制を作って、ルールに基づいて行動し、病院との信頼関係に努めます。また今後は、インクルーシブの課題である人手不足を解消するために、素質のあるピア・カウンセラーやピア・サポーターを増やして行きたいです。

## ●平成 29 年度をふりかえって

昨年度も多くの方に力を頂きました。この場にいる方々や、いつもインクルーシブに来て頂いている方々、ピアカンメンバー、病院訪問を通して関わっている方々にも色々なことを教わりました。活動の中で関わってきて「話を聞いてもらいたい」という強い思いをもつ方が、多くいるということを感じました。また、病院訪問の活動によって、傾聴の意味を再認識できましたし、皆さんに寄り添って話を聞くだけで、明るい顔になっていく様子を見ると、ピア・カウンセリングが大切であることを改めて教えて頂きました。

ピア・カウンセリングは沖縄県のインクルーシブ社会条例の中にも関連する条文があり、障害者運動の中でも大切な活動です。自立生活センターインクルーシブはまだまだ小さなセンターですが、自分達のできる事、ピア活動の在り方を考え、その役割を大切にしていきます。今年度もインクルーシブをよろしくお願ひします。

### ●自立生活センター インクルーシブ 来所者対応数および電話対応数一覧

対象年月	来所対応数（1回以上の来所者数） ※1	電話対応数 ※2
2017年4月	10回（1回以上=1回）	1回
2017年5月	1回（1回以上=0回）	3回
2017年6月	5回（1回以上=0回）	3回
2017年7月 ※3	—	—
2017年8月 ※3	1回（1回以上=0回）	—
2017年9月 ※3	—	—
2017年10月 ※3	—	1回
2017年11月	2回（1回以上=0回）	1回
2017年12月	3回（1回以上=0回）	1回
2018年1月	3回（1回以上=0回）	1回
2018年2月	7回（1回以上=0回）	3回
2018年3月	4回（1回以上=0回）	2回
2018年4月	20回（1回以上=3回）	7回
2018年5月	18回（1回以上=2回）	3回
2018年6月	11回（1回以上=1回）	3回
合計	49回（1回以上=7回）	29回

※1 相談事業所の問い合わせ、事業所PRの来所を含めず

※2 電話対応には相談事業所の問い合わせ、事業所PR、ピアカンの質問を含めず

※3 2017年7月から10月は職員不在であった（病休・長期出張等）ため、対応できず



# 活動決算報告書

第 19 期

自 平成29年 4月 1日  
至 平成30年 3月 31日

特定非営利活動法人  
沖縄県自立生活センター・イルカ

法人名：特定非営利活動法人沖縄県自立生活センターイルカ

## 貸借対照表

平成30年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額		
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	20,360,122		
未収入金	6,822,630		
仮払金	653,441		
流動資産合計		27,836,193	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
建物造作	734,615		
構築物	1,591,740		
工具器具備品	2,818,810		
減価償却累計額	△ 3,528,919		
有形固定資産計	1,616,246		
(2) 無形固定資産			
無形固定資産計	0		
(3) 投資その他の資産			
敷金	180,000		
定期預金	12,148,803		
投資その他の資産計	12,328,803		
固定資産合計		13,945,049	
資産合計			41,781,242
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	4,344,564		
預り金	263,808		
前受金	500,000		
流動負債合計		5,108,372	
2. 固定負債			
長期借入金	2,000,000		
固定負債合計		2,000,000	
負債合計			7,108,372
<b>III 正味財産の部</b>			
前期繰越正味財産			24,597,603
当期正味財産増減額			10,075,267
正味財産合計			34,672,870
負債及び正味財産合計			41,781,242

財産目録

平成30年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額	
<b>I 資産の部</b>		
1. 流動資産		
現金預金		
手元現金	355,509	
沖縄海邦銀行普通預金	19,905,692	
琉球銀行普通預金	1	
郵便貯金	98,920	
未収入金		
国保連 障害福祉サービス	166,230	
業務受託料	4,800,000	
相談支援初任者研修講師料	30,000	
沖縄県社会福祉協議会	320,000	
I L P	4,000	
介助料	1,502,400	
仮払金		
出張仮払他	653,441	
貸倒引当金		
流動資産合計		27,836,193
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産		
建物		
倉庫	734,615	
減価償却累計額	△ 734,614	1
構築物		
お墓	1,591,740	
減価償却累計額	△ 63,669	1,528,071
工具器具備品		
医療用人形	532,350	
電動ベッド	1,105,000	
点字プリンター	493,500	
A E D	687,960	
減価償却累計額	△ 2,730,636	88,174
有形固定資産計		1,616,246
(2) 無形固定資産		
無形固定資産計	0	
(3) 投資その他の資産		
敷金	180,000	
沖縄海邦銀行定期預金	12,148,803	
投資その他の資産計	12,328,803	
固定資産合計		13,945,049
資産合計		41,781,242
<b>II 負債の部</b>		
1. 流動負債		
短期借入金		
未払金		
給与	1,309,560	
社会保険料	377,504	
J I L 会費	84,000	
推進協会会費	1,275,000	
名護メモリアルパーク	1,298,500	
預り金		
源泉所得税	24,300	
雇用保険	39,511	

社会保険	185,997		
会費	14,000		
前受金			
損保ジャパン	500,000		
流動負債合計		5,108,372	
2. 固定負債			
長期借入金			
推進協会他	2,000,000		
固定負債合計		2,000,000	
負債合計			7,108,372
正味財産合計			34,672,870

法人名：特定非営利活動法人沖縄県自立生活センターイルカ

## 活動計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位：円)

科目	金額	
<b>I. 経常収益</b>		
1. 受取会費		
正会員受取会費	35,000	
賛助会員受取会費	48,000	83,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金	9,059,888	9,059,888
3. 受取助成金		
受取民間助成金	21,458,842	21,458,842
4. 事業収益		
自立生活プログラム事業収益	4,000	
障害者相談支援事業収益	5,307,000	
指定特定相談支援事業収益	704,050	
障害児相談支援事業収益	712,100	
啓蒙啓発活動事業収益	1,276,966	8,004,116
5. その他収益		
業務受託	9,600,000	
受取利息	84	
雑収益	245,898	9,845,982
経常収益計		48,451,828
<b>II. 経常費用</b>		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	21,769,740	
法定福利費	3,320,200	
人件費計	25,089,940	
(2) その他経費		
福利厚生費	215,504	
研修旅費交通費	1,676,915	
広告宣伝費	401,548	
通信運搬費	1,041,178	
支払手数料	56,480	
水道光熱費	198,909	
地代家賃	2,446,262	
新聞図書費	4,680	
車両費	718,693	
使用料	497,912	
消耗品費	782,837	
修繕費	21,922	
租税公課	1,746	
寄附金	970,000	
保証料	9,370	
リース料	425,876	
保険料	316,687	
諸会費	81,480	
会議費	289,164	
退職共済掛金	286,150	
減価償却費	149,071	
講師謝礼金	786,750	
雑費	228,990	
その他経費計	11,608,124	
事業費計		36,698,064
2. 管理費		
(1) 人件費		

給料手当	671,828		
法定福利費	102,687		
人件費計	774,515		
(2) その他経費			
福利厚生費	2,855		
研修旅費交通費	5,220		
広告宣伝費	5,000		
寄付金	30,000		
通信運搬費	25,552		
支払手数料	1,680		
水道光熱費	6,152		
地代家賃	75,658		
新聞図書費	97,302		
車両費	14,186		
使用料	720		
消耗品費	4,280		
修繕費	678		
租税公課	54		
保証料	290		
リース料	4,458		
保険料	7,652		
支払報酬	32,400		
諸会費	52,520		
会議費	1,373		
慶弔費	12,000		
退職共済掛金	8,850		
減価償却費	4,610		
雑損失	506,158		
雑費	4,334		
その他経費計	903,982		
管理費計		1,678,497	
経常費用計			38,376,561
当期経常増減額			10,075,267
Ⅲ. 経常外収益			
経常外収益計			0
Ⅳ. 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			10,075,267
法人税、住民税及び事業税			0
当期正味財産増減額			10,075,267
前期繰越正味財産額			24,597,603
次期繰越正味財産額			34,672,870

# 財務諸表の注記

期間：平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

1. 重要な会計方針  
財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1) 固定資産の減価償却の方法  
定額法、定率法で償却をしています。

(2) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は税込経理方式によっています。

2. 事業別損益の状況  
事業別損益の状況は以下の通りです。

科目	事業別損益の状況 (単位：円)									
	自立生活プログラ ム事業	障害者 相談支援事業	指定相談支援事業 (指定一般)	障害児 相談支援事業	権利擁護事業	啓蒙・啓発活動事 業	事業費合計	管理部門	合計	
I. 経常収益										
1. 受取会費										
2. 受取寄付金										
3. 受取補助金及び助成金等	320,000	5,307,000	704,050	712,100	519,000	4,080,653	11,646,803	36,805,025	48,451,828	83,000
4. 事業収益	4,000					1,276,966	8,004,116	17,950,000	8,004,116	9,059,888
5. その他収益							0	9,845,982	9,845,982	21,458,842
経常収益計	324,000	5,307,000	704,050	712,100	519,000	4,080,653	11,646,803	36,805,025	48,451,828	8,004,116
II. 経常費用										
(1) 人件費										
給料手当										
法定福利費										
人件費計	0	7,959,659	2,004,815	2,027,738	1,477,877	11,619,851	25,089,940	774,515	28,864,455	22,441,568
(2) その他経費										
福利厚生費	11,288									
車両費		268,405								
広告宣伝費	62,640									
慶弔費										
支払保険料	3,809									
研修旅費交通費	411,140	22,000								
通信運搬費		167,621								
消耗品費	15,222									
水道光熱費										
新聞図書費										
支払会費										
支払手数料										
使用料										
謝礼金	54,000									
支払リース料		281,750								
会議費										
減価償却費	20,170									
支払家賃										
修繕費										
退職共済手金										
租税公課										
寄付金										
雑費										
保証料										
支払報酬										
雑損										
その他経費計	578,269	739,776	1,204,282	1,218,053	887,755	6,979,989	11,608,124	903,982	12,512,106	506,158
経常費用計	578,269	8,698,435	3,209,097	3,245,791	2,365,632	18,599,840	36,698,064	1,678,497	38,376,561	32,400
当期経常増減額	△ 254,269	△ 3,392,435	△ 2,505,047	△ 2,533,691	△ 1,846,632	△ 14,519,187	△ 25,051,261	35,126,528	10,075,267	506,158

3. 使途等が制約された寄付等の内訳  
使途等が制約された寄付等の内訳は以下の通りです。

内容	前期残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
忘年会		50,000	50,000	0	沖縄県共同基金
障害者社会活動推進事業		519,000	519,000	0	沖縄県障害福祉
ネパール当事者エンパワメント		500,000	500,000	0	琉球銀行
自立生活プログラム		320,000	320,000	0	沖縄県協賛(当 期で事業は実施 済みの為全額費 用計上していま す。助成金は次 期に入金予定で す)
NPO基盤強化		500,000		500,000	探ジャパン (前受金として 負債に計上)
インクルーシブ運動会、自立生活塾、 平等絵本会 障害のある子供が地域社会で学ぶ場を 作る		1,099,842	1,099,842	0	国立青年機構
インクルーシブ教育の現場調査 相談支援		620,000	620,000	0	キリン福祉財団
		450,000	450,000	0	宮野湾市市民共 同
	0	5,267,000	5,267,000	0	宮野湾市
		9,325,842	8,825,842	500,000	

(単位：円)

4. 固定資産の増減内訳

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
建物	734,615			734,615	△ 734,614	1
構築物		1,591,740		1,591,740	△ 63,669	1,528,071
工具器具備品	2,818,810			2,818,810	△ 2,730,636	88,174
投資その他の資産						
敷金	180,000			180,000		180,000
	3,733,425	1,591,740	0	5,325,165	△ 3,528,919	1,796,246

(単位：円)

5. 借入金の増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
長期借入金	2,000,000			2,000,000
	2,000,000	0	0	2,000,000



## 監 査 報 告 書

私は、監事として、定款第46条の規定に則り、2017年度決算について、2017年4月1日から2018年3月31日までの事業年度にかかる当法人の事業執行および会計の状況に関する監査を実施した。

その監査の結果、業務執行に関しては、定款の活動目的に合致した業務が適正に行われ、会計の状況に関しては、事業報告書、収支計算書、貸借対照表及び財産目録を精査したところ、各種手続きが適正に処理されていることを確認した。また財産運用および用途については、いずれも適正であることを認め、ここに報告する。

2018年 5月 15日

特定非営利活動法人

沖縄県自立生活センター・イルカ

監事

高嶺 豊

## 平成 30 年度事務局活動予定

月	内 容	
4 月	定例会 理事会 重度訪問介護養成講座 きょうされん沖縄支部定期総会 バス研修	個別支援会議 ILP ピアカン 新人研修 勉強会参加 大学講義
5 月	定例会 理事会 推進研修 イルカ監査 バス研修 推進新人・中堅研修	ILP ピアカン 新人研修 勉強会参加 大学講義 個別支援会議
6 月	定例会 理事会 沖縄県自立生活センター・イルカ総会 JIL 総会(仙台) 個別支援会議 ILP ピアカン	勉強会参加 大学講義 バス研修 緊急理事会 個別支援会議 新人研修
7 月	定例会 理事会 ILP ピアカン 新人研修	勉強会参加 重度訪問従業者養成研修 個別支援会議 大学講義 バス研修
8 月	定例会 理事会 イルカ自立生活塾 個別支援会議 ILP ピアカン ネパール訪問	勉強会参加 重度訪問従業者養成研修 大学講義 ポパイ会議 バス研修 介助実習 新人研修
9 月	定例会 理事会 個別支援会議 ILP 重度訪問従業者養成研修 勉強会参加	新人研修 介助実習 ピアカン 大学講義 バス研修

月	内 容	
10月	定例会 理事会 重度訪問従業者養成研修 勉強会参加 バス研修 ピアカン	大学講義 個別支援会議 新人研修 介助実習
11月	定例会 理事会 緊急理事会 個別支援会議 ILP 重度訪問従業者養成研修	勉強会参加 バス研修 新人研修 ピアカン 大学講義
12月	定例会 理事会 御用納め 忘年会 JIL 全国セミナー(福岡) 個別支援会議 ILP	介助実習 勉強会参加 バス研修 新人研修 ピアカン
1月	定例会 仕事始め 理事会 ILP 集中講座 緊急理事会 ピアカン	新人研修 介助実習 勉強会参加 大学講義 バス研修 重度訪問従業者養成研修
2月	定例会 理事会 個別支援会議 ILP ピアカン	重度訪問従業者養成研修 勉強会参加 大学講義 バス研修 新人研修
3月	定例会 理事会 個別支援会議 ILP ピアカン 新人研修	勉強会参加 バスモニタリング 重度訪問従業者養成研修
予定 その他	JICA の研修生受け入れ 海外支援 ネパール訪問	

## 平成 30 年度 生活介護 活動計画

月	内 容
4 月	へリオス酒造見学 [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
5 月	ボーリング大会（和希さん企画） [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
6 月	イルカ総会 学習交流会（きょうされん） 【定期活動】定例会参加、リサイクル作業
7 月	ピクニック（雄二さん企画） 平等絵本読書会 [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
8 月	イルカ祭り（雄二さん企画） [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
9 月	キャンプ(証史さん企画) はごろも祭りカチャーシー大会 [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
10 月	ピクニック東南植物楽園（勝さん企画） [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
11 月	インクルーシブ運動会 おきされんスポレク大会（きょうされん） [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
12 月	イルカ忘年会 風船バレーボール大会（きょうされん） [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
1 月	イルカ新年会 [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
2 月	タコ焼きパーティー（鯨企画） 新春交流会（きょうされん） [定期活動]定例会参加、リサイクル作業
3 月	つつじ祭り（和希企画） [定期活動]定例会参加、リサイクル作業

### その他

- ・バリアフリーチェックは年間を通して実施
- ・各種講演会など、積極的に参加していく

## 平成 30 年度 生活介護 活動計画

### [目 的]

- ・目標達成のために仲間と共に切磋琢磨し、責任と向上心をもち活動する。
- ・お互いの障がいの特性を理解し、コミュニケーションを密にとり活動をスムーズにおこなえる場とする。
- ・様々なイベントへ参加することにより、障がい者も健常者もお互いに理解を深めあいながら、共に生活のできる社会づくりに貢献していく。
- ・地域で自分らしく生きるための課題や問題点に取り組み、そのことを社会に発信する力を身につける。

### [活 動]

#### 1. 社会活動

- ・読み聞かせや、はごろも祭りカチャーシー大会、インクルーシブ大運動会を通して地域社会との連携を強めながら、相互理解を深めていく。
- ・各活動を通し信頼、自覚、自信、責任を育みエンパワメントの向上につなげていく。
- ・バス研修やバリアフリーチェックを引き続きおこない、環境改善を促していく。

#### 2. 経験的活動

- ・夢や目標また、社会貢献につながる企画をおこなう。その中で課題を見出し、これまでに培ったノウハウを生かしつつ更なる成長と発展をこころざす。

#### 3. 仲間作りを意識した活動

- ・個々の意見を尊重しあいながら、それぞれの力を発揮し仲間同士のつながりを深めていく。
- ・他団体との交流から生まれる人間関係を大切に、活動の場や視野を広げ各々の成長につなげていく。

#### 4. まちづくり

- ・パネル展などで活動を地域社会に発信していく。

## 平成 30 年度 事業総括

### 沖縄県自立生活センター・イルカ 事業計画

#### ● 人事異動

宮城秀明氏……事務局長 → 自立生活インクルーシブ代表

ツアイ・スーフアン……生活介護支援員 → 自立生活センター・イルカ事務局長

#### ● DPI 日本会議の常任委員として

2018 年から 2 年間の任期で DPI 日本会議の常任委員として長位鈴子が選任され、その中で「インクルーシブ教育」の事を学び、沖縄県内で子どもたちの教育環境を変えていきたい。

#### ● 地域で生きるための相談事業及び権利を取り戻すため、地域での活動

親や本人たち、職員向け研修(障害者権利条約、障害者基本法、沖縄県共生社会づくり条例、DET 障害者平等研修等)

#### ● 人材育成について (形を行動に移す年とする)

誰もが等しく・平等に幸せを感じ、夢を描ける社会づくりを目指せるような育成をする。

インクルーシブな社会にしていくために、障害児の教育環境にも関心を持ちながら地道に改善できるように行動していく。

JIL 加盟団体からの呼びかけにも積極的に参加をしていく。

#### ● 海外支援について

- ・ネパールポカラ支援金年間 120,000 円(年に 2 回送金予定)
- ・JICA 草の根協力事業 3 年間契約……ネパール被災障害者支援事業(2018 年 8 月ネパール訪問予定) 2019 年 4 月、9 月訪問予定
- ・エンパワメント沖縄と共同で海外支援(JICA の研修生を受け入れる)

#### ● 全国自立生活センター協議会セミナー参加

- ・JIL 総会・研修 2018 年 5 月 28 日～30 日
- ・JIL 全国セミナー
- ・JIL 九州ブロックセミナー

#### ● 推進協会研修

- ・新人・中堅研修 2018 年 4 月 17 日～2018 年 4 月 19 日 神奈川県川崎市
- ・中堅・代表研修 2018 年 6 月 26 日～2018 年 6 月 28 日 神奈川県川崎市
- ・中堅・代表研修 2018 年 9 月 17 日～2018 年 9 月 19 日 福岡県小倉
- ・中堅・代表研修 2018 年 10 月 16 日～2018 年 10 月 18 日 神奈川県川崎市

## ●イロカ企画研修

- ・「障害者権利条約批准」崔栄繁氏 2018年5月25日～5月27日
- ・自立生活塾 2018年8月4日～8月6日 金武町ネイチャーみらい館
- ・ネパール訪問 2018年8月18日～2018年8月29日
- ・ピアカウンセリング集中講座 2018年10月か11月予定
- ・インクルーシブ教育 in 沖縄 2018年12月予定
- ・JT NPO 団体助成事業 2018年4月～2019年3月 学校づくり始め
- ・絵本の読み聞かせ 2018年10月～2019年2月（毎月2回）
- ・インクルーシブ運動会 2018年11月予定

# 平成30年度活動予算案

特定非営利活動法人  
沖縄県自立生活センター・イルカ



法人名：特定非営利活動法人沖縄県自立生活センターイルカ

活動計算書（案）

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

（単位：円）

科目	金額	
I. 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	50,000	
賛助会員受取会費	300,000	350,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金	7,400,000	7,400,000
3. 受取助成金		
受取民間助成金	12,035,300	12,035,300
4. 事業収益		
指定特定相談事業収益	660,000	
相談支援事業収益	5,200,000	
障害児相談支援事業収益	700,000	
啓蒙啓発活動事業収益	1,300,000	7,860,000
5. その他収益		
業務受託	8,800,000	
受取利息	100	
雑収益	200,000	9,000,100
経常収益計		36,645,400
II. 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当て	21,000,000	
法定福利費	3,300,000	
人件費計	24,300,000	
(2) その他経費		
福利厚生費	200,000	
研修旅費交通費	1,300,000	
啓蒙啓発費	10,000	
広告宣伝費	350,000	
通信運搬費	800,000	
支払手数料	60,000	
水道光熱費	200,000	
地代家賃	2,500,000	
新聞図書費	5,000	
車両費	720,000	
使用料	500,000	
消耗品費	900,000	
修繕費	50,000	
租税公課	5,000	
寄附金	0	
保証料	10,000	
リース料	600,000	
保険料	500,000	
諸会費	80,000	
会議費	280,000	
退職共済掛金	300,000	
減価償却費	400,000	
講師謝礼金	800,000	
雑費	230,000	
その他経費計	10,800,000	
事業費計		35,100,000
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当て	800,000	

法定福利費	100,000		
人件費計	900,000		
(2) その他経費			
福利厚生費	4,000		
研修旅費交通費	6,000		
啓蒙啓発費			
広告宣伝費	5,000		
寄付金	30,000		
通信運搬費	30,000		
支払手数料	3,000		
水道光熱費	7,000		
地代家賃	80,000		
新聞図書費	90,000		
車両費	20,000		
使用料	1,000		
消耗品費	10,000		
修繕費	10,000		
租税公課	5,000		
保証料	1,000		
リース料	20,000		
保険料	8,000		
支払報酬	32,400		
諸会費	50,000		
会議費	5,000		
慶弔費	12,000		
退職共済掛金	10,000		
減価償却費	200,000		
雑費	6,000		
その他経費計	645,400		
管理費計		1,545,400	
経常費用計			36,645,400
当期経常増減額			0
Ⅲ. 経常外収益			
経常外収益計			0
Ⅳ. 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			0
法人税、住民税及び事業税			0
当期正味財産増減額			0
前期繰越正味財産額			34,672,870
次期繰越正味財産額			34,672,870